

# 事故防止及び 事故発生時対応 マニュアル — 基礎編 —

み

ま

も

い

睡眠中

水遊び中

食事中等



## はじめに

本市では、平成28年4月に認可外保育施設において、児童の死亡事故が発生しました。「こども・子育て支援会議 教育・保育施設等事故検証部会」より出された提言の中でも、事故対応マニュアルの整備が必要と示されています。

この「み・ま・も・り - 基礎編 -」には、

- ★ 事故予防のためには何が必要か
- ★ 具体的には何をすればいいのか
- ★ 事故が起こってしまったらどうすればいいのか 等

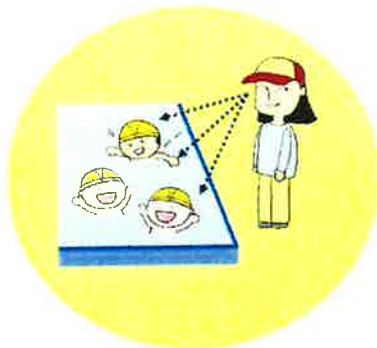
重大事故\*が発生しやすい場面（睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等）や緊急時の対応をチェックポイントで示しています。

※ 重大事故とは・・・死亡事故、意識不明等の重篤な事故

一つひとつチェックすることで、基本的な安全確認ができるようになっていきます。安全で安心な保育を行い、大切な『こどもの命を守る』ために、ぜひご活用ください。

## 目次

- **み**んなで取り組む事故予防 ～こどもの命を守るために～ P 1～3
- **ま**ず確認！睡眠中も保育中 ～睡眠時安全チェックポイント～ P 4・5
- **も**ちろん配置！水遊びには監視役  
～プール活動・水遊び安全チェックポイント～ P 6・7
- **り**スクを減らす！いつも観察 誤嚥予防  
～誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント～ P 8・9
- 事故発生時の対応 P 10～13



# みんなで取り組む事故予防

## ～こどもの命を守るために～

事故発生時、

どう対応するか 想像できますか？

いつもならできることが  
とっさにできない 可能性があります



早期発見 が

こどもの命を助けることにつながります



こどもを **見守り**、異変に気づく

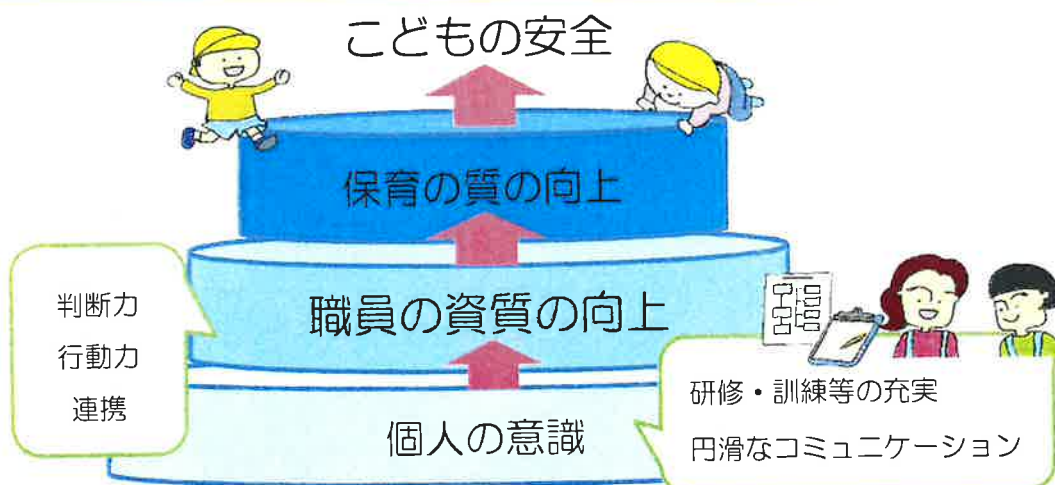


あなたの **気づき** がこどもの **命を守ります**

あの時こうしておけば・・・という思いをしないように

今できることを考えましょう

こどもが安心できる環境づくりには  
職員一人一人の意識が大切です



「誰かが見てくれていると思っていた」ではなく  
声を掛け合い、常にこどもの動きを把握しましょう



保育現場には、さまざまな体験の機会があります  
 こどもたちは豊かな体験を通して成長していきます

一方で、

命に関わる危険なリスクも潜んでいます

**例えば...**

**危ない!**

窒息の危険のある遊具をプール時に使用してしまっていた! (ヒヤリハット\*)

もしかしたら、口に入れてのどに詰めてしまったかもしれない...

プールでスーパーボールを使って、「ヒヤッ」としました。

プールでスーパーボールを使わないよう、再度、皆に伝えましょう。

口に入らなくてよかった~

**ではなく!**

**職員間で予防策を考える**

※ ヒヤリハットとは、事故になる可能性があった「ヒヤリ」「ハッと」したできごと

ヒヤリ

**事故**

ハット

ヒヤリ

「ヒヤッ」とした経験を職員間で共有することは事故予防につながります

## チェックポイントを確認し、事故を防ぎましょう



重大事故が発生しやすい場面のチェックポイントをまとめました  
それぞれの場面に合わせた危機管理を行い、事故を防ぎましょう

### 睡眠中

睡眠時安全チェック  
ポイント (P4・5)



### 水遊び中

プール活動・水遊び安全  
チェックポイント (P6・7)



### 食事中

誤嚥・誤飲・窒息事故防止  
チェックポイント (P8・9)



万が一、事故が起こってしまった場合

「事故発生時の対応 (P10~13)」に従い、迅速に対応する



そのためには事前にシミュレーション (状況に応じた役割分担の訓練)  
を行っておく必要があります！

職員間で事故予防や発生時の対応  
について共通認識を持ちましょう



# まず確認！ 睡眠中も保育中

## 睡眠時安全チェックポイント



睡眠時の安全確保

睡眠中が最も突然死等の危険性が高い！

『自園でも起こりうる』  
かも...

「こどもの安全を最優先とする」意識の徹底



- 睡眠中も保育である
- 睡眠中のリスクの共有  
うつぶせ寝・窒息・預かり初期のリスク 等

- 見守り(観察・記録)に  
専念できる体制づくり
- 緊急体制の整備
  - ↓ 心肺蘇生法・AED の操作研修の実施
  - ↓ シミュレーション研修(状況に応じた役割分担の訓練)の実施

### チェックポイント



#### 1 入園時の確認

- 入園児の生育歴等を把握する
- 配慮事項等がある場合、全職員で情報を共有する
- SIDS 対策普及啓発用ポスター(厚生労働省)を掲示したり、リーフレットを配付する
- こどもの健康状態等の情報を日々保護者と共有する(特に預かり初期は要注意)
- こどもの状況に応じた慣らし保育の必要性を保護者に説明し、理解を得る



### チェックポイント



#### 2 睡眠中の観察



— 特に、預かり初期は注意深い見守りを！ —

- 0・1 歳児はうつぶせ寝を見つけたら、仰向けにする
  - 0 歳児は5分毎  
1 歳児以上は10分毎 ] に観察する
- | 項目                   |
|----------------------|
| • 名前の確認・顔色・唇の色       |
| • 呼吸状態の有無(呼吸音・胸の動き)  |
| • 呼吸の様子(咳・ゼーゼー・鼻づまり) |
| • 熱感(体に触れて体温・発汗等)    |
| • 体位                 |
- その都度、睡眠時観察表に記録する

### 3 睡眠環境等の確認

カーテンは直射日光や寒さ防止等、必要な場合を除いて、基本的には明るさの確保のため開けておく



- 敷布団は固めのものか
- 掛け布団は軽いものか
- コットの上のマット等は固定されているか
- 枕は使用していないか
- 布団やコットは観察しやすく並んでいるか
- 室内の照明は顔色等が観察できる明るさか

適宜換気を行っているか



- 体調等いつもと違う様子はないか
- 水分補給はできているか
- 口の中に何も入っていないか

- よだれかけは、はずしているか
- 周囲に「ぬいぐるみ」「おもちゃ」「タオル」「コード等のヒモ状のもの」はないか
- おもちゃ等を持っていないか
- すき間に顔が埋まらないよう布団のすき間をあけている、もしくはすき間なくつめているか



動いて上に乗ることも



子ども生活の目安



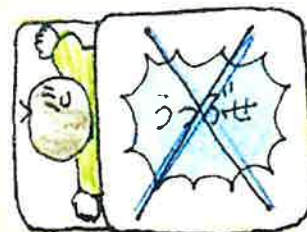
部屋は暖めすぎているか

寝かしつける時から仰向けにしているか

〈温度・湿度の目安〉

	温度	湿度
冬	20~23℃	約 60%
夏	26~28℃	約 60%

- ・室温湿度計は子どもが生活する高さに設置する（安全に留意しながら）
- ・冷房は床面の温度が2~3℃低い場合があるので、睡眠時は留意する



睡眠中は床暖房やホットカーベットを使用しない（暖めすぎの防止）

# もちろん配置！ 水遊びには監視役

## プール活動・水遊び安全チェックポイント



### 安全対策の確立



#### 監視体制の確立

監視者が監視に専念できる体制作り



#### 緊急体制の確保

心肺蘇生法・AED操作研修及びシミュレーション研修の実施(状況に応じた役割分担の訓練)



#### 乳幼児の特性とリスク

10cmの深さでも溺れることがある



★安全を最優先に考え、十分な監視体制が確保できない場合は、プール活動の中止も選択肢とする

## こどもの安全が最優先

### 監視者とは

監視体制の空白が生じないように専ら監視を行う者とプール指導等を行う者を分けて配置する



監視者はプールサイドの子どもたちと遊んだり、プール指導者の補助をしたりせず、**監視に専念する者**

「監視者」の目印等を決める



### 役割

- プール全域をくまなく監視する
- プールに参加している子どもの人数を把握し、確認を適宜行う
- 動かない子どもや不自然な動きをしている子どもを見つける ← 静かに溺れることが多い
- 特定の子どもに視線を固定せず、定期的に視線を動かしながら全体を監視する
- 異常かどうかの見極めは、顔(特に目)を見る
- 持ち場を離れる時は、代替りの職員を配置する

### チェックポイント



#### 1 事前管理

- 慢性疾患等の配慮を必要とする子どもへの対応の確認
- 当日プール活動ができない子どもへの対応の確認
- 排泄が自立していない子どもへの対応の確認
- プールに入る人数の確認(人数を考慮しているか)

### チェックポイント



#### 2 活動実施の判断

- プール活動ができる環境か
  - ・雨天、強風、雷が鳴ったとき
  - ・光化学スモッグ警報発令のとき
  - ・PM2.5の注意喚起のとき
  - ・暑さ(熱中症)指数が高いとき
  - ・土、砂等による汚染が著しいとき

一つでも当てはまる場合は**中止**とする





：設備・環境



：こども



：職員

### チェックポイント



## 3

### 環境の整備



- 日よけ対策は行っているか
- プールの破損・亀裂はないか
- 石やガラス等、危険物はないか
- プールサイドは滑りやすくなっていないか
- 排水溝の安全点検は行ったか

- プールの清掃と整理は行ったか
- プライバシーへの配慮は行っているか
- 監視場所に死角はないか
- 心肺蘇生法・AED操作や緊急時対応のフローチャートをプール付近で確認できるか (P10~13参照)
- 救急用具(応急手当セット、毛布、笛等)の確認は行ったか

### チェックポイント



## 4

### 活動前の確認



- プール環境は適切か  
(気温 26℃以上・水温 27℃以上)
- 水深は年齢に応じて調整できているか
- 適正な塩素濃度になっているか  
(塩素濃度 0.4 mg/L~1.0 mg/L)
- こどもへの安全指導を行ったか
- 薬の預かりはないか
- 体温はどうか
- 顔色・機嫌はどうか
- 目ヤニ・充血・鼻水・発疹等はないか
- 傷はないか(あれば状態はどうか)
- 便の状態はどうか
- 水分補給は適切に行ったか
- 帽子を着用しているか
- 準備体操を行ったか
- シャワーで適切に体を洗ったか
- おしりに排泄物が残っていないか
- 窒息の危険があるおもちゃはないか
- 職員の健康状態はどうか



### チェックポイント



## 5

### 準備物の用意



- 塩素剤  
(使用上の注意を必ず読んでおく)
- 残留塩素測定器・試験紙
- 気温計
- 水温計
- プール管理日誌
- 時計
- 救急用具(応急手当セット、毛布、笛等)
- 拡声器・携帯電話(緊急時に応援を呼び)

こどもの手の届かない位置に保管

### チェックポイント



## 6

### 活動中の確認



- こどもの人数を把握できているか
- 人数を監視者に伝えたか
- 適正な塩素濃度を維持しているか  
(10~20分毎に測定する)
- 健康状態(顔色や身体の様子)はどうか
- 監視者はプール全域をくまなく監視しているか

### チェックポイント



## 7

### 活動後の確認



- ケガはないか
- 健康状態はどうか
- シャワーで体を洗ったか
- うがいをしたか
- 水分補給をしたか



- 保育室の室温は適切か
- 速やかにプールの水を排水し、鍵を閉め(カバーをかけ)たか
- プール管理日誌に記録をしたか

# い スクを減らす！ いつも観察 誤嚥予防

## 誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント

### こどもの特性

- ・ 歯の発育
- ・ 摂食機能が未発達
- ・ こどもは思いもよらない行動を起こす



さまざまな要因が

**誤嚥・誤飲  
窒息事故に  
つながる！**



### 食べ物や玩具の性質

大きさ・形状

食感（表面の滑らかさ、弾力性、硬さ、噛み切りにくさ）



職員の窒息危険性の認識不足

こどもの状況を日常的に意識する



### こどもの様子を把握する

#### 【健康状態】

- ・ 健康観察
- ・ 当日のこどもの健康状況をていねいに保護者から聞き取る



#### 【行動】

一人一人の様子に目を配る



『幼児だから口に入れない』といった先入観ではなく、こどもは思いもよらない行動を起こす特性を考える



職員間で情報共有し、事故を防ぐ

## 食事



### チェックポイント

1

#### 環境

- 食器・食具は適切か
- 机・椅子の高さは適切か
- 慌てて配膳していないか（誤配膳防止を含む）

### チェックポイント

2

#### 食品の形態

- 大きさ・形状・温度・量・粘着度等は適切か
- 個々に応じたひと口の量・大きさに調整しているか

### チェックポイント




3

#### 食事時間

- ゆったりとした保育の流れとなるよう工夫しているか
- 食事前に水分を摂ったか
- 詰め込まないよう指導できているか
- 食べるスピードが速すぎないか
- よく噛むよう指導できているか
- 「笑う」「泣く」が起きた時には詰まらないかどうかを観察できているか
- 眠くなっているときに無理に口の中に入れていないか
- 食べ終わりに口の中が空になっていることを確認したか

## 食事以外(保育時間中)

### チェックポイント

- 誤嚥・誤飲・窒息につながるものを持ち込んだり、身につけていないか（家庭や園外から、おもちゃ、小石や木の実等の自然物、菓子・雑貨、フード付き上着等を持参していないか）
- 発達に応じたおもちゃを選択しているか（素材や大きさなど）
- ボタンや髪留め、飾りやアクセサリ、ビニール袋等が身近にないか
- こどもの手の届く場所に危険なものがないか（口に入るものなど）
- 薬品、洗剤、肥料の管理が徹底できているか
- 菜園活動中や散歩中等に、作物や木の実等を口に入れていないか
- 異年齢と一緒に遊ぶ場合は、状況に応じたおもちゃを選択しているか、または、コーナーに分かれて遊んでいるか

確認しましょう！

チャイルドマウス



この円形・楕円形の中に入るものはこどもの口に入ります

誤飲物を縦、横、斜めにして楕円形に入りそうなものは、こどもが飲み込んだり、窒息の危険があります

※乳児クラスについては、身の回りに口に入りそうなものはないかチェックしてみましょう

# 事故発生時の対応（救命処置が必要な場合）



## 初期対応

応急処置ができるよう場所を空け、  
他の園児をその場から離す

他児の保育

（担当： ）

### チェックポイント ✓

#### 1 反応の確認

反応はあるか

- 反応がない
- 反応があるが、いつもの反応でない

### チェックポイント ✓

#### 3 呼吸の確認

呼吸はしているか

呼吸がない

呼吸がある

心肺蘇生を行う  
AED 装着

様子観察



**※こどもの側から離れない！**

呼吸をしているか等、こどもから目を離さず確認

心肺蘇生・応急処置

（担当： ）

P12 を見る！

こどもの観察・記録

（担当： ）



溺れかけたり、窒息しかけた場合は、元気そうに見えても、できるだけ早期に受診する

チェックポイント

**2** 救急車の手配

P13 を見る!



**119** 番通報 (担当: )

チェックポイント

**4** 連絡

- 保護者へ連絡
- 浜松市障害保健福祉課へ連絡  
「053-457-2860」



連絡係

(担当: )

# 救命処置

## 発見者！直ちに！その場で！対応開始！

### 反応を見る！

肩や背中をたたきながら大声で呼びかけても  
何らかの応答やしぐさがなければ「反応なし」とみなす



周りに知らせる！119番通報！※笛等で応援要請！人を集める！

### 呼吸を見る！

### 気道の確保

### 呼吸なし



呼吸をしていない時、即座にその場で人工呼吸開始！  
反応がなく、呼吸がないか、**死戦期呼吸**（「口をパクパク」「あえぐような」呼吸）が認められる場合は**心停止と判断**、心肺蘇生(CPR)の適応と判断し、ただちに人工呼吸・胸骨圧迫を開始する  
※睡眠中は突然死が考えられるため、すばやく見極め緊急度を判断！口腔内の確認！

## 心肺蘇生 (CPR) (胸骨圧迫30回：2回人工呼吸) 強く・早く・絶え間なく！中断しないこと！

	呼吸が重要！	胸骨圧迫！	
1歳以上			<ul style="list-style-type: none"> <li>●片手の付け根で</li> <li>●乳首を結ぶ線の真ん中</li> <li>●胸の厚さ約1/3くぼむまで</li> <li>●少なくとも100~120回/分</li> </ul>
1歳未満			<ul style="list-style-type: none"> <li>●中指・薬指の2本で</li> <li>●乳頭を結ぶ線の少し下</li> <li>●胸の厚さ約1/3くぼむまで</li> <li>●少なくとも100~120回/分</li> </ul>

1歳以上は口対口人工呼吸（鼻はつまむ）  
1歳未満は口対口鼻人工呼吸（口鼻一緒に）、胸が軽く膨らむ程度の量で行う

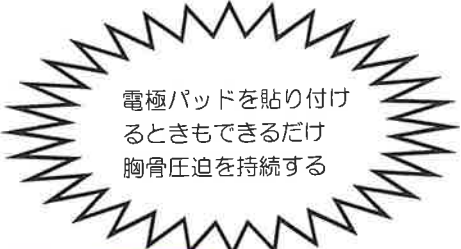
## AED 装着 心肺蘇生は救急隊に引き継ぐまで続ける！

### 電極パッド装着

AEDのメッセージに従う

**必要あり**  
「必要」と音声 flowed たら音声に従い電気ショックボタンを押すその後、心肺蘇生を再開する

**必要なし**  
「不要」と音声 flowed たら、ただちに、心肺蘇生を再開する



※職員はAEDがどこに設置されているのかを把握しておく

※ 各施設の名称、住所等、具体的な状況を入れましょう。

《119番通報》

【例】

種類・・・「救急です。」

場所・・・「住所は浜松市〇〇区〇〇、〇番地の〇〇（施設名）です。」

「（目標物）〇〇郵便局の北側100mです。」

通報者・・・「私は〇〇（施設名）の〇〇です。電話番号は〇〇〇〇－〇〇〇〇です。」

被害状況・・・「〇歳児〇名が〇〇な状態です。」

※こどもの状態を聞かれたら簡潔に伝える。



事故防止及び事故発生時対応マニュアル — 基礎編 —